



アオモジ (青文字) ~蕾~ <クスノキ科 ハマビワ属>

高さ5mほどになる落葉小高木。岡山県以西、九州沖縄に自生。葉は、互生に付き全縁。葉身7~15mm、幅2~4.5mmで細長く、葉先は次第に狭くなりよく尖る。花は早春、葉の展開に先立ち沢山のクリーム色の小花を咲かせる。初秋、直径5mmほどの実を付け、赤色から黒紫色に熟す。雌雄異株。雄株は花付も良く美しいので花材にされる。葉や実や枝には柑橘系の芳香があり、別名ショウガの木、コショウの木と呼ばれる。果実は、エッセンシャルオイルの抽出に利用。仲間のクロモジと似るが、より葉が長く先が尖る。名の由来は、クロモジの枝が黒いのに対し、緑色を帯びていることから。▼友人から頂いたアオモジの枝。薄緑の丸い蕾を枝一面鈴なりに付けたその姿が、何とも愛らしい。蕾をつぶすと爽やかなレモンの香りがした。▼早春の候、枝も蕾も緑に染めたアオモジは、生き生きとした生命の躍動を感じさせる。水さえ欠かさなければ蕾から花が咲き、長く愉しめるという。水さえあれば、かならず花開くアオモジ。花言葉は「たくさんの友」。春は、すぐそこに。 ~佐伯区石内 2024・2~